

Y11b 学生団体 AstroKIT (Kyushu Institute of Technology) による天文学教育の実践

當銘優斗、佐野圭、瀧本柚月歌、藤川至誠、AstroKIT メンバー (九州工業大学)

天文観測プロジェクトの推進には、理学的な知見に加え、工学的な素養が必要不可欠である。天文研究者の多くは理学部出身であるが、工学部にも、天文に興味を持つ学生が存在する。工学部から天文学に携わる人材を輩出するためには、理学的な問題意識や科学的探究心を持って研究活動を進められる環境を提供することが非常に重要である。しかし、九州工業大学は工学単科大学であり、天文に触れる機会が少ない。そこで、我々は工学的な素養に基づき、理学的な視点で観測装置開発に取り組む人材の育成を目指し、学生団体「AstroKIT (アストロキット)」を設立した。AstroKIT の特色は、学部生が一つのプロジェクトに長期間専念するのではなく、短期間で遂行可能なプロジェクトに複数関わることで、科学的な仮説の立案から実験・観測、データ解析までを一貫して経験できる点にある。これにより、理学的な探究心と工学的な実践力、さらにプロジェクト遂行に必要なシステム工学の素養を実践的に養うことを目指している。

現在、学部生 15 名、大学院生 5 名で活動しており、参加学生から自発的に複数のプロジェクトが立案され、「小惑星の掩蔽観測」では、移動式地上望遠鏡を用いて、独自に小惑星の恒星食の観測に成功した。「本学の屋上望遠鏡の修繕・運用」では、長期間稼働していない、口径 38cm 屋上望遠鏡の再運用に向けた改修を行っており、科学観測を立案・実施する。また、「超小型天文ミッションの検討」にて、10cm 角サイズで達成可能な科学観測の検討を行い、観測部の設計・製造・試験を実施予定である。本講演では、学部生が短期間で取り組むことのできる天文ミッションについて、幅広い分野の研究者と議論を行いたい。